

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2773001504
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会
事業所名	飛鳥ともしび苑
所在地	大阪市東淀川区東中島3丁目16-20 (電話) 06-6990-5002
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 9月 9日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	12人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.81人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	76,000円
敷金	有() 円 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有() / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要 (平成 20年 7月 26日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	7名	要介護2	7名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 80.2歳	最低	60歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院、崎原歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年地域で活動されてきた社会福祉法人が運営するグループホームで、真向かいには母体法人の運営する老人福祉センターがあり連携が図られています。「私の話を聞いて欲しい。私にして欲しいことを訊いて欲しい。私自身を、もっと理解して欲しい。これは出来ないと思われたい。私を「今」という時を生かさせて欲しい。右の言葉を基本理念として、いのち輝く健やかな暮らしなれと、共に歩んで行きたい。」を理念に掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るくやさしい雰囲気です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価で示された事項についての改善が進んでいます。利用者は平均して週3回以上入浴ができるようになっています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、あらかじめ職員に白紙の自己評価票を渡して記入してもらい、管理者がまとめて完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、ネットワーク推進委員の参加のもとで、2~3ヶ月毎に開催しています。会議では法人全体の運営状況、ホームの運営状況や行事、利用者の生活ぶり、職員の研修や異動、地域との交流等について説明を行い、意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時に、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項についてその都度電話で家族へ報告をしています。年に2回「飛鳥ともしび苑だより」も発行し、行事や生活状況について写真とともに報告しています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族の確認を得ています。家族とは日常の面会時や年2回の家族も招く行事の時に、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。また意見箱も設置しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 真向かいにある母体法人が運営する老人福祉センターでのカラオケクラブに参加したり、新舞踊を見学したり、幼稚園児とお茶会に出席したりして地域の人と交流しています。同じ建物の上の階の生活支援ハウスのスペースや屋上テラスでハウスの人達とバーベキューなどの合同行事を楽しんでいます。地域の夏祭りや盆踊りにも出かけています。ホーム主催の夏祭りには老人福祉センターに通う近隣の人も招待しています。ホームでは、近隣中学生の体験学習も受け入れています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私の話を聴いて欲しい。私にして欲しいことを訊いて欲しい。私自身を、もっと理解して欲しい。これは出来ない決め付けないで欲しい。私を‘今’という時を生きさせて欲しい。右の言葉を基本理念として、いのち輝く健やかな暮らしになれば、共に歩んでいきたい。」を理念として定め、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。月例のケース会議や日々の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	真向かいにある母体法人が運営する老人福祉センターでのカラオケクラブに参加したり、新舞踊を見学したり、幼稚園児とお茶会に出席したりして地域の人と交流しています。同じ建物の上階にある生活支援ハウスのスペースや屋上テラスでハウスの人達とバーベキューなどの合同行事を楽しんでいます。地域の夏祭りや盆踊りにも出かけています。ホーム主催の夏祭りには老人福祉センターに通う近隣の人達も招待しています。近隣中学校の体験学習も受け入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について改善が進んでいます。利用者は平均して週3回以上入浴ができるようになっていました。自己評価については、あらかじめ職員に白紙の自己評価票を渡して記入してもらい、管理者がまとめて完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、ネットワーク推進委員の参加のもとで、2～3ヶ月毎に開催しています。会議では法人全体の運営状況、ホームの運営状況や行事、利用者の生活ぶり、職員の研修や異動、地域との交流等について説明して意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。	○	運営推進会議は年6回、もしくは概ね2ヶ月に1回開催することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の職員や地域包括支援センターの担当者との意見交換や困難事例の相談の機会は多く、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時に、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項についてその都度電話で家族へ報告をしています。年に2回「飛鳥ともしび苑だより」も発行し、行事や生活状況について写真とともに報告しています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族の確認を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは日常の面会時や年2回の家族を招く行事の時に、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。また意見箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年に比べ退職者は少し多くなっていますが、残った職員の頑張りや新人職員の採用を行い、サービスの向上と職員の育成を図ることにより利用者への影響は最小限に抑えられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人は年間計画に従って管理職研修、リーダー研修、一般職員研修、新人職員研修等を実施しています。緊急時対応や感染症の研修会に参加しています。認知症などの専門研修についても、外部研修への参加とともに月例のケア会議で伝達研修を行っています。今後は、職員のステップアップや資格取得を支援し、認知症などの専門性を高める研修への参加の機会を増やすことが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市社会福祉施設連盟のグループホーム分科会に参加し、相互の交流や意見交換を実施し、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が家庭訪問を行ったり、利用者や家族がホームに見学を訪れたり、2泊3日のお試し利用を通じて馴染みの関係を作り、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし家事を中心にそれぞれが得意なことをし、料理の方法を教えてもらったり、菜園での水遣りや収穫等ホーム内で役割を持ってもらう等、利用者の得意な分野で学び支え合う関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年から利用者が望んでいる暮らし方を知るため、利用者の活動制限や参加の制約に着目しています。また利用者の取り巻く環境を良くするサービスや能力を高めるサービスを考え、ICF（国際生活機能分類）による『生活機能向上シート』を使用しながら課題（ニーズ）を設定し、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に沿い、生き生きと生活を楽しめるように利用者の生活を支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握して「生活機能向上シート」を作成しニーズを把握して、医師の意見、家族の意向を反映させ、介護計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3ヶ月毎に、状態の変化がある時はその都度見直しをしています。ケース会議の結果を織り込んだ医療と介護サービス内容を記した「利用者個別情報シート」を職員に配布して確実な実行を求めています。計画作成担当者は、毎月、モニタリング・評価・ケース会議を行って、3ヶ月毎の介護計画の見直しにつなげています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の生活支援ハウスの屋上テラスで日光浴や散歩、合同の食事会、大風呂での入浴を楽しんでいます。母体法人が運営している老人福祉センターでのカラオケ同好会に参加している利用者もいます。遠出の外出の時には福祉の専門学校からのボランティアを受け入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師による往診医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前からかかりつけの医療機関より引き続き医療を受けています。家族が同行できないときは職員が介助しています。協力医院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のホームの準備状況では看取りの実施は困難で、将来の検討課題としています。重度化した場合や終末期のあり方について、可能な限りホームで生活していけるよう、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を続けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。起床時間に合わせて朝食がとれるようにし、入浴時間も柔軟にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望を聞きながら作った献立表に添い、食材業者から生食材を取り寄せ、食事準備、下ごしらえ、調理、盛り付け、後片付けに至る一連の流れを利用者も得意分野で参加しながら楽しんでいます。職員は利用者と同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。菜園で収穫した野菜が食卓にのることもあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常、週3～4回程度の入浴を楽しみ、併設の生活支援ハウスの大風呂で季節の菖蒲湯や柚子湯も楽しんでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事を中心にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。毎日居室の仏壇の前で御経を唱え、家族と携帯電話での通話後に散歩を楽しまれる方、塗り絵の好きな方、友人が尋ねてくると連れ立って喫茶店に出かける方、一人で近隣のスーパーに買い物に出かける方などをそれぞれの楽しみごとを支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の周辺の神社・お寺への散歩や週2回の買物、真向かいの老人福祉センターへの訪問の支援をしています。季節毎の花見や初詣、遠出のイベントにも出かけています。特に地元にある有名な桜の名所に出かけるのが利用者の楽しみになっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の時間帯、玄関ドアは開錠されています。チャイムや鈴をつけ、内からはテンキーを押せば開く構造になっており、利用者は自由に開けて、職員の見守り支援により外出することができるようになっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルが作成され、年2回消防署の指導で消防避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄については実施されていない状況です。	○	非常・災害時のための食料品と水の備蓄をすることが求められます。また備蓄については「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成してはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては母体法人の他施設の栄養士からアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットにはそれぞれ独立して格子戸の玄関入口があります。玄関周りには季節の花、観葉植物、手作り作品が飾られ、リビング前のテラスには菜園があり、たくさんの季節の花が咲いていて、訪ねやすい雰囲気になっています。明るく広く、ゆったりとしたリビング兼ダイニングルームには、テーブルの他、調理カウンターの前に利用者も参加して食事の準備をする作業台があります。掘りこたつのある和室のほか、ソファや椅子が置かれ、玄関や風呂場の前にも椅子があって居場所が確保されています。壁には季節の切り絵が壁画として飾られ、全体として、ゆったりと落ち着いた雰囲気の空間になっています。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には整理タンス、収納ケース、書斎机、椅子、飾り棚、仏壇、花、装飾品、家族の写真、テレビ、ラジオ、家族と連絡を取る携帯電話など使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、個性的で落ち着いた雰囲気で、利用者が安心して過ごせる場所となっています。</p>		